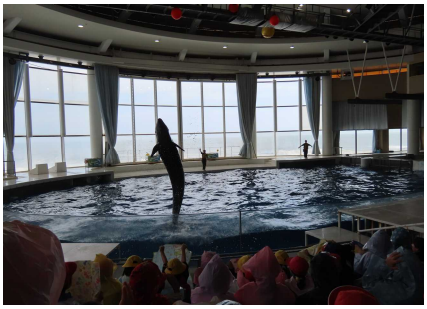
令和７年度　共に学び 認め励まし鍛え合い 笑顔輝く児童の育成

学校だより　かがやく笑顔

R7. 11. 5　潮来市立牛堀小学校　No.11

失敗から学ぶ！～教室は間違ってもいい場所～



９月下旬から１０月にかけて旅行・集団宿泊的行事がありました。１・２年生はアクアワールド大洗水族館へ遠足、３・４年生は笠間焼、茨城県庁見学、５年生は茨城県立中央青年の家での宿泊学習、６年生は栃木方面への修学旅行を行いました。どの学年も子どもたちは友達と協力して楽しく活動することができました。また、子どもたちにとって貴重な学びの場となりました。保護者の皆様、お忙しい中、準備等ありがとうございました。

さて、５年生の宿泊学習の振り返りで「失敗を次に生かすことが大切だ」と書いた子どもがいました。飯ごう炊飯をした時にちょっとしたミスをしてしまったことから、学校でも家でもお手伝いを率先してやろうと思ったそうです。ミスをしたとき友達は「大丈夫だよ」とやさしく声をかけてくれたそうです。

「失敗は人を成長させる」と言います。とは言うものの、失敗すること、間違うことは誰でも恥ずかしいと感じるものです。子どもたちは上の学年になるにつれて、これまでの苦い経験から、さらに、失敗を恐れるようになります。「失敗から学ぶ」と言うことは簡単ですが、失敗や間違いを温かく包み込む環境づくりは決して容易なことではありません。一人一人を大切に思う人間関係を築くこと、そして失敗や間違いから学ぶ姿勢をつくることがとても大切になってきます。

アメリカの心理学教授のキャロル・Ｓ・ドゥエックさんは『やればできる！の研究』という本の中で、子どもには２種類のタイプがいると書いています。１つめのタイプは、「知能は持って生まれたもので、努力しても変わらない」と考える子ども、もう１つのタイプは「知能は努力しだいで伸びていく」考える子どもです。前者は失敗した時にそれ以上努力をしようとはなかなか思えない、そして、自分に対する他人の評価をいつも気にしているそうです。それに対し後者は、失敗した時にも粘り強く努力を続けることができ、他人の評価よりも自分の能力を伸ばすことに関心を向けるそうです。

もちろん、一人一人の性格の違いもありますが、大人の接し方で子どもが変わるとも書かれています。子どもを「失敗を恐れずに、何にでも果敢に挑戦し努力する子」に育てるために重要なことは、頭の良さや能力を褒めるのではなく**努力して成し遂げたことを褒めるべきだ**ということです。つまり子どもが努力したことを褒めると、子どもは努力することに喜びを感じるようになるのだと言っています。

子どもたちは一人一人に良さがあり可能性があります。しかし、努力しなければもっているカを十分に発揮することはできません。苦手なことなども続けていくうちにできるようになったり、好きになったりすることもあります。毎日の学習を含め、自分で限界を決めず最後まで挑戦してほしいと思います。そして、子どもたちの努力や頑張りを大切に、「褒める」「認める」声かけを大切にしながら、一人一人が存在感や成就感を感得でき自分をカ一杯表現できるよう、教職員一同、子どもたちと共にこれからも取り組んでいきたいと思います。保護者の皆様・地域の皆様、これからも変わらぬご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

TEL 64-5536　FAX 64-5044　HP https://www.itako-school.jp/ushibori-el
（学校だよりは、ホームページでも公開しています。ぜひアクセスしてください。）